

「地域社会の持続的な開発と変革を促進するための地域福祉の方法論とは」

産業構造の変化にともなって、住む場所と働く場所が断ち切られたライフスタイルが主流になり、かつては一体であった生産と生活の場は分離し、近隣関係の希薄化が進んでいる。また、ライフコースや就業形態が多様化し、専業主婦や自営業者のようなかつての地域活動の主要な担い手は、減少したり、不安定化している。高齢化や人口減少は、こうした傾向に拍車をかけ、地域福祉活動の担い手の不足がいたるところで課題として語られている。さらに、特定の場所に定住することに価値をおかない人が増加する中で、地域福祉の対象として、地理的な「地域社会」だけでなく、様々なつながりの「コミュニティ」の重要性が増していくかもしれない。しかし一方では、様々な既存の集団に帰属の場を持たない社会的なつながりが弱い人の課題が顕在化する中で、豊かで新しいつながりを地域社会の中でどのようにつくっていけばよいのかが課題とされている。

以上のように、地域福祉実践を取り巻く環境が大きく変化する中で、「地域福祉の方法論研究プロジェクト」では、新たに求められる地域福祉の方法とはいかなるものかを検討している。本公開研究フォーラムでは、本プロジェクトの問題意識を会員と共有し、またその途中経過として地域福祉方法論をめぐる今日的な理論課題を取り上げ、これからの地域福祉の方法について議論したい。

- 日時：2022 年 1 月 29 日（土）13：00-16：30
- ZOOM によるオンラインで実施
- 定員：なし
- 参加費：無料

【内容】

- 挨拶 日本地域福祉学会会長 原田正樹（日本福祉大学）
- 13：10-13：30 『「地域社会の持続的な開発と変革を促進するための地域福祉の方法論研究」の問題意識』
藤井 博志 日本地域福祉学会 地域福祉の方法論研究プロジェクト 研究代表（関西学院大学）

第 I 部 コミュニティオーガナイズィングを知る

- 13：30-14：30 「コミュニティオーガナイズィングを知る—地域福祉方法論としての今日的な意義—」
室田 信一（東京都立大学）
小田川華子（公益社団法人ユニバーサル志縁センター・東京都立大学）

休憩（14：30～14：40）

第 2 部 地域福祉方法論をめぐる今日的な理論課題

- 14：40-15：25 論点 1 地域福祉の推進主体と地域社会変革
柴田学（関西学院大学）×門美由紀（東洋大学人間科学総合研究所）
- 15：25-16：10 論点 2 地域福祉のエンパワメントアプローチの実践構造
菱沼幹男（日本社会事業大学）×村井琢哉（山科醍醐こどものひろば・関西学院大学）
- 16：10-16：25 総括討議

■参加申し込み方法

参加を希望される方は、①氏名、②所属、③会員・非会員の別、④E-mail アドレス、⑤緊急連絡先（電話番号）を、2022年1月21日（金）までにご連絡ください。

登録された E-mail アドレスに、当日使用する zoom の URL 及び当日配布資料を送付します。

【お申込みフォーム】 <https://pro.form-mailer.jp/fms/1e728003207927>